

第66回実践経営学会全国大会を開催いたしました。

第66回全国大会実行委員長 武居奈緒子（摂南大学）

2023年9月1日（金）から3日（日）にかけて、第66回実践経営学会全国大会を摂南大学寝屋川キャンパスで開催いたしました。今回の実践経営学会全国大会は、株式会社阪急阪神百貨店代表取締役社長の山口俊比古様、株式会社タカショー代表取締役社長の高岡伸夫様といった関西の経済界を代表する方々に基調講演をしていただくことになりまして、公表とともに前評判が立ち、全国的に注目された中における開催になりました。結果的に、統一論題シンポジウム、自由論題報告を含めまして、ご期待以上の大盛況となりましたことに感謝を申し上げます。

9月1日（金）のExcursionでは、まず黒門市場と道頓堀を散策しました。大阪ご出身である大阪経済大学の井形浩治先生（第66回全国大会実行副委員長兼事務局長、同学会元会長、同学会常任理事）がバスガイド役になり、こてこての大阪をご紹介されていました。併せて、大阪経済の現状と実態をご堪能できたのではないのでしょうか。直近では、プロ

野球で阪神タイガースが優勝したことにより、道頓堀が脚光を浴びたことも重なって、勢いのある大阪経済を改めて認識いたしました。綿業会館に到着後は、同館の見学を行い、17時から常任理事会、18時から理事会が開催されました。

9月2日（土）の午前中は、4会場において自由論題報告が行われました。

開会式・統一論題シンポジウムは、同日午後から催され、まず、摂南大学荻田喜代一学長による歓迎の辞、実践経営学会板倉宏昭会長によるご挨拶、武居奈緒子による統一論題シンポジウムの趣旨説明が行われました。

そして、統一論題テーマ「大阪・関西企業（経済）の競争力」のもとに、第1基調講演には、株式会社阪急阪神百貨店代表取締役社長の山口俊比古様をお招きし、「阪急阪神百貨店の経営戦略と実践～「お



株式会社阪急阪神百貨店 代表取締役社長 山口 俊比古様

お客様の暮らしを楽しく、心を豊かに、未来を元気にする楽しさNo.1百貨店」の具現化に向けて～」という演題で御講演いただきました。そこでは、創業者・小林一三のDNAが阪急阪神百貨店において脈々と継承されていること、その一方で、阪急阪神百貨店の最先端の戦略についても御披露されていたりしました。大阪発のイノベーションが、阪急阪神百貨店からも発信されていて、それは2025年開催予定の日本国際博覧会（大阪・関西万博）をも視野に入っているものであり



株式会社タカショー代表取締役社長 高岡伸夫様

ました。

百貨店は、明治37(1904)年、三越呉服店のデパートメントストア宣言に始まる呉服店系と、昭和4(1929)年開業の阪急百貨店を創始とする電鉄系に分類できますが、いずれの百貨店においても共通しているのが、設立時の経営理念が今日まで継承されていること、一方で伝統を踏まえながらも、現代の風を取り込みイノベーションを起こしている点です。御講演を拝聴いたし、小売業界において今後もイニシアティブを握り続けるのは百貨店である、ということを確認致しました。

第2基調講演には、株式会社タカショー代表取締役社長の高岡伸夫様をお招きし、「関西経済の競争力ーガーデン・エク

ステリア業界の大転換期ー」という演題で御講演いただきました。日本の住環境について、欧米との比較の中から特徴を指摘され、ガーデニング業界においても、大阪発のイノベーションが可能であることを御提案されていました。

4名の基調講演の後、コーディネーターの井形浩治先生、司会の武居奈緒子を含めたパネルディスカッションでは、大阪経済・関西経済の未来におけるあるべき姿等が討論され、大阪経済・関西経済の展望が見通せる内容でした。お陰様で、実践経営学会として一定の見解が示される有意義な統一論題シンポジウムになりました。

18時からの研究・情報交換会においては、摂南大学岩坪加紋経営学部長による歓迎の辞、株式会社阪急阪神百貨店代表取締役社長の山口俊比古様によるご来賓のお言葉、株式会社タカショー代表取締役社長の高岡伸夫様による乾杯の音頭と続き、会を盛り上げていただきました。

9月3日(日)は、午前中、4会場において自由論題報告があり、午後から会員総会が催されました。

第66回実践経営学会全国大会実行委員会は、「心のこもったおもてなし」をモットーに掲げ、井形浩治先生には、トータルで3日、事前に摂南大学にお越しいただき、準備を進めてまいりました。

各方面から、「大成功、おめでとうございます。」「すばらしいで



総合司会・統一論題司会
武居奈緒子教授

す。」「べた褒めよ。」といったお言葉を多数、頂戴致しております。ご参加いただきました皆様、基調講演いただいた皆様、関係者の皆様、そ

して後援いただいた関西ベンチャー学会、関西ベンチャー研究会ネットワーク(神戸・大阪・北摂・京都)の皆様に、重ねて御礼を申し上げます。



パネルディスカッションの様子

中央左から、株式会社阪急阪神百貨店代表取締役社長の山口俊比古様、株式会社タカショー代表取締役社長の高岡伸夫様、中央右から、井形浩治教授、武居奈緒子教授

第66回実践経営学会全国大会 (摂南大学主催)を振り返り

常任理事 井形 浩治 (大阪経済大学)



第66回実践経営学会全国大会は、2023年9月1日から3日にかけ、大会実行委員長・武居奈緒子先生の指揮のもと、摂南大学寝屋川キャンパスにて開催された。統一論題テーマは、「大阪・関西企業(経済)の競争力」であった。

9月1日のExcursionは、「大阪の台所」とも称される黒門市場から出発し、次に「大阪ミナミの道頓堀」へと向かい、短い時間ながら関西随一の歓楽街散策を楽しむことができた。その後、戦前時の「大大阪」の面影を残す綿業会館での見学会が行われて、散会した。

9月2日(土)は、午前中に自由論題が4会場に分かれて行われ、午後は統一論題シンポジウムが行われた。基調講演は、同大学学長・荻田喜代一先生から歓迎の言葉を賜り、本学会会長・板倉宏昭先生のご挨拶から始まった。第1基調講演は株式会社阪急阪神百貨店代表取締役社長の山口俊比古氏、第2基調講演は株式会社タカショー代表取締役社長の高岡伸夫氏、第3基調講演は大阪産業経済リサーチセンターの町田光弘氏、そして第4基調講演は近畿経済産業局2025NEXT関西企画室の石原康行氏によるものであった。続くパネルディスカッションでは、4氏に再度ご登壇賜り、ディスカッションとフロアを含めた活発な質疑応答を通じて、本テーマの核心がさらに深められることになった。その後の研究・情報交換会においては、同大学経営学部長の岩坪加紋先生からもご挨拶を賜った。さらに、基調講演登壇の4氏も最後まで同会参加メンバーにお付き合いいただけたことに深い感銘を受けた。

9月3日(日)は、午前中に自由論題が4会場で開催されることになり、その後、板倉会長のもと会員総会が開催され、無事閉会となった。本学会開催については、武居先生のもとに実行委員として前年度大会委員長であった田村正文先生(八戸学院大学)、松井温文先生(岡山商科大学)、吉野忠男先生(大阪経済大学)、そして微力ながら井形も加わった。また、2名の武居ゼミ学部生と、武居先生の実弟で歯科医師・武居紀之氏(医療法人なかの歯科クリニック副院長)もボランティアでお手伝い賜り、その他大会参加者によって多くの場面でお助けいただいた。実行委員の一人を代表して、皆様には深く御礼申し上げます。

ただ、反省点・課題点も多く残す結果となった。例えば、準備対応するうえでのマンパワーの数的欠如、会場アクセスを含めた案内周知の至らなさ、基調講演の先生方への対応不備、新教室使用による情報機器環境への不慣れ、等々といったところである。さらに、開催3日間通しての酷暑、大型台風の接近といった「自然災害」や、コロナ感染による複数不参加者によるプログラム変更も行わざるを得ず、それらに輪をかけることになってしまった。

しかしながら、自由論題報告ではコメンテータ、座長全員からのご尽力も得られ、プログラムも計画通りに進めることができ、多くの報告者からは満足な声も聞かせていただいた。

本大会は、新会長の下での最初の全国大会ともなり、「学会新体制」と「次回全国大会(日本大学)」へのバトンタッチと「下準備」ができたのではないかと自負する。

2022 年度（第55期）収支決算書 2022.4.1 ～ 2023.3.31

自 2022（令和4）年4月1日 至2023（令和5）年3月31日

（円）

収入の部				支出の部			
勘定科目	実 績 A	予 算 B	予算比 A - B	勘定科目	実 績 A	予 算 B	予算比 A - B
前期繰越金	6,528,476	7,000,000	△ 471,524	全国大会費	381,830	380,000	1,830
会費収入	2,560,000	3,200,000	△ 640,000	支部研究発表会費	355,000	380,000	△ 25,000
受取利息	31	1,000	△ 969	会報発行費	420,024	300,000	120,024
雑 収 入	118,882	15,000	⑦ 103,882	機関誌・論文集発行費	2,281,334	1,100,000	① 1,181,334
				ホームページ維持費	455,730	180,000	② 275,730
				経営関連学会協議会分担金	0	30,000	③ △ 30,000
				理事会費	44,000	80,000	△ 36,000
				事務局運営費	517,647	500,000	17,647
				旅費交通費(常任理事等)	132,590	250,000	△ 117,410
				通信費	13,681	185,000	△ 171,319
				消耗品費	69,190	30,000	④ 39,190
				学会賞費	107,690	40,000	⑤ 67,690
				理事選挙運営費	245,802	100,000	⑥ 145,802
				雑費	19,382	15,000	4,382
				予備費	0	0	0
				支出合計	5,043,900	3,570,000	1,473,900
				次期繰越金	4,163,489	6,646,000	△ 2,482,511
収入合計	9,207,389	10,216,000	△ 1,008,611	支出・繰越合計	9,207,389	10,216,000	△ 1,008,611

郵便振替口座	4,021,596	40周年記念奥野基金（定期預金）	1,650,003
三菱東京UFJ銀行（新丸の内）	141,893	次期繰越金	4,163,489
三菱東京UFJ銀行（定期預金）	1,650,003	手元現金	
合 計	5,813,492	合 計	5,813,492

主な予算増減の内訳・説明

- ① 前年度発行の実践経営58号の支払いが遅れ、今期2年分の支払いとなった。
- ②④ 事務局のパソコンが故障したためデータ復旧、ハードウェア修理費がかかった。
- ③ 立替払い分を次年度に計上するため、ここでは0となっております。
- ⑤ 業者の賞状、盾の製作費が値上がりした。
- ⑥ 3年に一度の理事選挙があったため
- ⑦ 機関紙の著作権料(学術著作権協会)からの収入増

監査報告書

第55期収支決算書について、預金通帳その他の書類に基づいて監査した結果、収支の状況を適正に表示しているものと認めましたので、ご報告申し上げます。

2023年 7 月 3 0 日

監 事

松尾 敏 介 

監 事

小池 慎 介 

第55期（2022年度）実践経営学会・学会賞について

● 学会賞

柳 純

『日本小売企業の国際マーケティング－アジア進出の軌跡と国際知識移転プロセス』（同文館出版2022年）

● 名東賞

北野 友士

『イギリスにおける銀行業と自己資本の展開』（文眞堂 2023年）

● 学術研究奨励賞

山田 敏之

『個人の双面性と従業員エンゲージメント：モデレータ要因としてのストレス対応力、心理的安全性の役割』

実践経営第60号 2023年6月

機関誌『実践経営』第61号投稿論文（査読付き）募集

実践経営学会会長 板倉 宏昭

機関誌『実践経営』第61号への投稿論文（査読付き）を募集いたします。

今号より、多くの方にご投稿いただけますよう文字数の見直しを行いました。全国大会や支部会でご発表された方はぜひご投稿をご検討されますようお願いいたします。

『実践経営』第61号掲載の査読論文の執筆要項

1. 投稿資格と提出論文の限定

- (1) 第66回全国大会（摂南大学）、または各地方支部会において研究を発表した会員による報告論文であることを原則とする。尚、その前年度に報告された論文で、査読応募を見送った論文については、応募が認められる。
- (2) 原稿提出期限までに、その年度までの学会年会費が納入されている会員であること。
- (3) 提出できる論文は、上記(1)において報告された論文を、発表時に受けたコメントなどを踏まえて、文字数・図表数の増加、考察の充実等の方法により、量的にも質的にも充実させたものであること。ただし、論文の主旨、内容が、報告論文から大きく離れない限り、タイトルを変更することは差し支えない。

(4) 学術論文としての体裁を整えた原稿であること。(参考のために『学術論文としての要件・体裁・配慮』を参照のこと)

以下のような構成が一般的である)

○論文タイトル、執筆者氏名(所属機関)

○目次

○本論(第1章、第2章…)

○結論

○注(本論で引用した文献名、統計調査名等について、出所・箇所を明示する、参考にした文献等)

2. 執筆の方法・文字数等

(1) 原稿は原則として電子媒体(パソコン・ワープロ・ソフト)による横書き(日本語または英語)とする。(MS-word で、10.5 ポイントをお願いします)

(2) 総字数は、本文、注、図表、文献リストを含めて 12,000字以上、22,000 字以下とする。(英文は6,000ワード以上、11,000 ワード以下(概算文字数を巻頭に明示すること。総文字数の大幅な超過または不足の 場合には、形式審査の段階で排除されます)

(3) 図表は、「タイトル 1 行」と「注記 1 行」を含んで、下記の要領で文字数に換算し、原則として合計で A4 版の刷り上がり 2 ページ以内とする。

①刷り上り 2 分の 1 ページ大の図表 2,000 字(英文は1,000ワード)に換算

②刷り上り 4 分の 1 ページ大の図表 1,000 字(英文は500ワード)に換算

3. 表記の方法

(1) 図表原稿は、本文では挿入箇所を明示して、原稿段階では本文とは別にまとめる

(2) 「表○ タイトル」は表の上部に、「第○図 タイトル」は当該図の下部に記載する。

「図表○ タイトル」とする場合には図表の上部に記載する。

(3) 注記は「文末脚注」とする。

(4) 「引用文献」の表示は、原則として本文中では「注番号」を付して、本文末に一括して掲示するか、「本文中では(著者名(出版年))で表示し、文末に著者名のアルファベット順で文献目録を表示する。また必要に応じて若干の参考文献も列挙できる。ただし、「注」は、あくまでも自身の主張の論拠を示すものであって、他者へ関連書籍を案内するものではない。

(5) 引用文献・参考文献の表示は以下の通りとする。

① 雑誌等に掲載された論文の場合: 執筆者名(出版年)、「論文題名」(英文の場合ダブルクォーテーション”Title of the Paper“、『掲載誌紙名』(英文の場合イタリック*Journal*)、巻号、引用箇所(pp.00-00)

② 単行書籍の場合: 執筆者名(出版年)、書名、出版社、引用箇所(pp.00-00)とする。

(6) 執筆原稿には「表紙」をつけ、①論文題名(和文と英文)、②投稿者氏名(和文と英文)、③所属機関(和文と英文)と肩書き、④住所、電話・FAX 番号、⑤Eメール等の通信連絡先を記載すること。(英文の場合は英文のみ)

(7) 論文原稿の本体には、冒頭に、論文題名(和文と英文)、氏名、所属機関を明示すること。大学院生の場合は「○○大学院○○課程」を明記すること。

(8) 論文には 4~5 のキーワードを表示する。

4. 投稿の方法

(1) 投稿先:

論文データを機関誌専用メールアドレス: jsam.headoffice3@gmail.com
に送付。(投稿論文の郵送は不要です。)

(2) 投稿締め切り日 **2024年1月9日(火)9:00**

5. その他、ご了解いただきたい関連事項

- (1)「論文査読」は、『実践経営学会 査読内規』に基づき、原則として編集委員長が委嘱する2名以上のレフェリーによって行われる。なおレフェリーの査読結果が異なる場合においては、担当常任理事が最終決定を行う。
- (2)「査読の目安」は、①問題提起および結論の明確性、②先行研究・既存学説の理解、③資料・参考文献の適切性、④推論の論理性、⑤独創的な着眼および技法、⑥文章表現、⑦引用文献・参考文献の表示の適切性、などである。
- (3)原稿掲載の最終決定は、レフェリーからの『査読結果報告書』に基づき、機関誌編集担当常任理事が行い、常任理事会に報告され、その後、投稿者に連絡される。
- (4)査読の結果は「掲載可」または「掲載不可」のいずれかとし、「修正のうえ、再査読」という結果は、本会としては有していない。
- (5)「掲載不可」となった場合には、編集委員会を通じて、「文献の探索が不足」、「論理構成に問題あり」など、簡単な査読結果が伝えられる。また、次年度(次号)に限り、投稿が認められる。
- (6)査読プロセスを通過し、掲載が決定された原稿については、編集作業上の必要から、改めて最終原稿の提出が求められることがある。
- (7)執筆者校正は原則として初校のみとする。
- (8)投稿原稿の不採用が決定される前に当該原稿を他の媒体に発表したり、公刊することは許されていない。

6. 学術論文としての要件・体裁・配慮

研究成果を公表する際に下記のような配慮をすることが、研究論文の質の向上につながるだけでなく、自身の研究者としての評価を左右することになる。

以下の諸点に配慮がなされていること。

(1) 他者のオリジナリティの尊重

研究結果の公開にあたって、他の研究者や原著者のオリジナリティはもっとも尊重されるべきであり、他の研究者の著者としての権利を侵害してはならない。また盗作や剽窃といった“窃盗行為”は、許されない。したがって「自分のオリジナル」と「それ以外」とを明確に区別し、他から得た情報は情報源を明記することを厳守すること。

(2) 先行研究の尊重

学術論文を執筆する際には、先行研究を適切にふまえ、しかもそのことを論文の中で明示する必要がある。先行研究やその問題点をどのように理解しているかを示すことは、自分の問題意識や問題提起のオリジナリティやその学問的意義を他者に明確に伝えるうえでも不可欠である。

(3) 引用の基本原則

他者の著作からの引用は、公表されたものからしかできない。研究会でのレジュメや私信など、公開されていないものから引用する場合には、引用される側の許可が必要である。

引用に際しては、①引用が必要不可欠であること、②引用箇所は必要最小限の分とどめること、③引用文と他の文

を明確に区別すること、④原則として原文どおりに引用すること、⑤著者名と著作物の表題・引用頁数など出典を明示する、という基本原則を遵守しなければならない。

(4) 図表などの「使用」

オリジナリティの高い図表や写真・絵画・歌詞などを使用する場合は、法律用語としては「引用」ではなく、他者の著作物の「使用」にあたる。その場合には、当該図表・写真・絵画・歌詞などの著作権者から使用の許諾を受けなければならない。

(5) 「二重投稿」の禁止

同一あるいはほとんど同一内容の論文を、同時に別々の雑誌に投稿することは「二重投稿」として禁じられている。学術雑誌の場合には、投稿論文は未発表のものに限られる。

以上

第56期 実践経営学会・学会賞の募集要項

学会員を対象として第56期実践経営学会・学会賞、名東賞、学術研究奨励賞を次の要領にて募集します。

1. 対象作品

2023年4月1日から2024年3月31日までに発刊(初版本に限る)または発表された著書または論文のうち本募集要項に基づいて提出されたもので、自薦または会員の推薦によるものとします。

なお、同期間中に発刊された学会機関誌に掲載された論文は、本募集要項に基づいて提出されたものとみなします。

① 学会賞

企業・産業に関する理論研究の発展に寄与する優秀な著書または論文

② 名東賞

企業・産業に関する実証・実践研究の発展に寄与する優秀な著書または論文

③ 学術研究奨励賞

企業・産業に関する実態調査の発展に寄与する優秀な著書または論文

2. 応募要領

当該著書3冊に、著者名・著書名(論文の場合にはその抜刷またはコピー3部に執筆者名及び掲載誌名)、発行所名等を明記した書面を添付してください。なお、応募された作品は、返却しませんのでご注意ください。

3. 応募資格

2023年度(第56期)までの年会費に未納がないこと(通常会員)。

4. 締め切り

2024年4月29日(月) 必着

5. 選考

学会賞審査委員会

6. 発表及び表彰

会報等に掲載するほか、第67回全国大会(会員総会)の席上で賞状等を贈呈

7. 送付先および問い合わせ先

Email: jsam.headoffice@gmail.com

2023年度新規入会のお知らせ(2023.6.1～2023.9.30)

入会者	ご所属	担当支部	承認日
大沢 宥介	八戸学院大学	東北	2023年4月17日
尾宅 雄一	名古屋経済大学	中部	2023年4月26日
瀬川 直樹	宮崎大学	九州	2023年5月14日
魏 丹陽	大阪商業大学	関西	2023年5月31日
袁 忠帥	大阪商業大学	関西	2023年5月31日
反田 和也	埼玉学園大学	関東	2023年5月31日
下田 雅己	東京都庁	関東	2023年6月6日
董 航	梅光学院大学	中国・四国	2023年7月3日
島田 信子	シマダ簿記教室	関西	2023年7月18日
川村 佑紀	株式会社FLAG-41	関東	2023年8月2日
伊藤 哲弥	テイ・エス・テック株式会社	関東	2023年8月2日
榎本 寿枝	ヤフー株式会社	関西	2023年9月2日
LAU Chung Ming	宮崎大学	九州	2023年9月16日

実践経営学会事務局からのご連絡

■住所・勤務先などの変更届のお願い

住所や勤務先、メールアドレス等が変更になった会員の方は、
jsam.headoffice2@gmail.com（会員情報管理専用メール）までご連絡ください。

■第56期 会費納入のお願い

第56期の会費納入のご案内を既にお送りしておりますが、万が一お手元に届いていないという方がいらっしゃいましたら、下記メールアドレスまでご一報ください。
jsam.headoffice2@gmail.com（会員情報管理専用メール）

■各支部からのご連絡などは、学会ホームページをご覧ください

実践経営学会ホームページ(<http://www.jsam.org/>)では最新情報を随時掲載しております。各支部からの情報も、ホームページをご活用ください。また、ご登録いただくことにより、ニュースをメールで受け取ることができますので、是非ご利用ください。

実践経営学会

JAPAN SOCIETY FOR APPLIED MANAGEMENT

発行日：2023年10月31日

発行所：実践経営学会

発行者：会長 板倉 宏昭

〔本部・本部事務局〕 〒140-0011 東京都品川区東大井1-10-40 東京都立産業技術大学院大学 板倉宏昭研究室内

制作：(株) マインド